

杜若

立命館大学校友会設立百周年
立命館大学能楽部創部九十周年
記念能楽会



立命館

2019年 6月16日(日) 午前9時30分より

於 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44
平安神宮南 電話：075-771-6114

能「杜若」「熊坂」ほか舞囃子・仕舞など多数

ご入場無料・全館自由席・ご入退場自由 9時開場・終演午後5時30分ごろ

主催：立命館大学能楽部OB会・立命館大学能楽部 後援：立命館大学校友会 補佐：青木道喜（講師・シテ方観世流）

お問い合わせ先：立命館大学能楽部OB会事務局 e-mail ritsnohob@gmail.com お気軽にお問い合わせください。

能「杜若」写真 シテ 青木道喜（写真：金の星灘辺写真場提供）

熊坂

立命館大学校友会設立百周年
立命館大学能楽部創部九十周年
記念能楽会



立命館

2019年 6月16日(日) 午前9時30分より

於 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44
平安神宮南 電話：075-771-6114

能「熊坂」「杜若」ほか舞囃子・仕舞など多数

ご入場無料・全館自由席・ご入退場自由 9時開場・終演午後5時30分ごろ

主催：立命館大学能楽部OB会・立命館大学能楽部 後援：立命館大学校友会 補佐：青木道喜（講師・シテ方観世流）

お問い合わせ先：立命館大学能楽部OB会事務局 e-mail ritsnohob@gmail.com お気軽にお問い合わせください。

能「熊坂」写真 シテ 小寺利文（能楽部OB 昭和63年卒）

記念能楽会

午前九時三十分

速吟 鶴亀キリ 能楽部現役生一同

午前九時五十分頃

舞囃子 高砂五段 水野 力雄(昭和五一年卒)
舞囃子 邯鄲 平田 太(平成八年卒)

午前十時三十分頃

舞囃子 紅葉狩 急ぎ舞 中谷 雅晴(平成十一年卒)
速吟 船弁慶 サシくち八節 昭和五一〜五五年卒有志

午前十一時頃

一調 安宅 勅進帳 中小路宗隆(昭和三十年卒)
速吟 田村キリ 能楽部〇日会東海支部

午前十一時三十分頃

能 杜若 恋之舞
杜若の精 徳岡和美(昭和四五年卒)
旅の僧 原 大(平成六年卒・ワキ方高安流)
地謡 女性〇日・現役 ほか

午後十二時三十分頃

仕舞 船橋 山本 淳(昭和四二年卒)
速吟 吉野天人 能楽部〇日会奈良支部

午後十二時四十分頃

狂言小舞 七つになる子 松本 薫(昭和六一年卒・狂言方大盛流)
番外仕舞 雨月前之段 橋本擴三郎(昭和四七年卒・シテ方観世流)
番外仕舞 三井寺 鎌之段 戸川 瑞穂(昭和四六年卒・シテ方観世流)

午後一時十五分頃

仕舞 清経くち 太田 吉雄(昭和四八年卒)
速吟 熊野 ロンギ 神無月会

午後一時四十分頃

舞囃子 松風 水戸 直子(平成六年卒)
舞囃子 三輪 日野 敦子(昭和三六年卒)

午後一時三十分頃

仕舞 西王母 大廻 優人(現役・二回生)
仕舞 胡蝶 藤井 佳穂(現役・三回生)
仕舞 龍田くち 福岡 葵(現役・二回生)

午後一時四十分頃

舞囃子 松虫 高木 昌生(昭和四七年卒)
一調 正尊 起請文 分林 保弘(昭和四一年卒)

午後二時十分頃

招待出演 京都大学能楽部観世会〇日会
招待出演 京都女子大学能楽部観世会〇日会
招待出演 法政大学能楽研究会〇日会

午後三時三十分頃

能 熊坂

熊坂長範 坂井順亮(平成二十七年卒)
旅の僧 小林 努(平成九年卒・ワキ方高安流)
里の者 善竹忠亮(平成四四年卒・狂言方大盛流)
地謡 男性〇日・現役 ほか

午後四時四十分頃

仕舞 兼平

志賀 勝正(昭和四一年卒)

仕舞 東北くち

堅田 寛美(昭和六一年卒)

仕舞 百萬 豊之段

矢崎美奈子(平成三年卒)

仕舞 野守

高橋 大作(平成九年卒)

午後五時頃

速吟 海士玉之段

難酔、ゝ会

速吟 玄象

月夜会(結成五十年)

午後五時三十分頃終了予定

番外仕舞 西行桜

青木 真由人(立命館宇治中学校三年生)
青木 道喜(立命館大学能楽部講師)

速吟 狸々キリ

全員

能 杜若

かきつばた

三河国(愛知県)に、諸国を巡る僧が着きます。沢辺に咲く杜若を眺めていると、ひとりの女が現れます。女はこは杜若の名所、八橋であると教えます。僧が八橋が古歌に詠まれた地であることを言うと、女は在原業平が「かきつばた」の五文字を句のはじめに置き、「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるにきぬる たびをしぞおもふ」と詠んだことを語ります。やがて日が暮れると、女は一夜の宿を貸しましょうと僧を自分の庵に招きます。女はそこで装いを替えて現れます。美しく唐衣、に冠を戴いた雅びな姿です。唐衣は業平の恋人高子の后のもの、冠は業平のもの、と教え、自らは杜若の精であることを告げます。杜若の精は、業平は歌舞の菩薩の化身、その和歌の言葉は非情の草木をも救いに導くと語ります。そして、伊勢物語に描かれた恋や歌の言葉をちりばめながら美しい舞を見せ、すべてを仏に導く法を授かり、悟りを得たとして、夜明けの光の中に姿を消します。

能 熊坂

くまさか

東国を目指す都の僧が、美濃国(岐阜県)赤坂にさしかかります。そこに、一人の僧が現れ彼を呼び止めます。今日はさる者の命日なので、弔って欲しいと頼みます。旅僧は、誰を回向するかと問いますが、その名は明かまず、庵に案内します。庵の中には仏像は無く、長刀などの武具があるばかりです。旅僧は怪しんで尋ねます。すると、「この辺りは物騒なので、助けを求め人々のためのものであり、また、仏の教えにもかなうことです」と言って寢室へ姿を消します。するとたちまち、辺りは一面の草むらとなつてしまします。

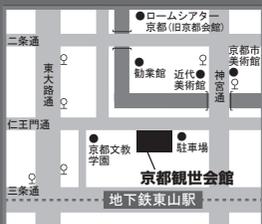
旅僧は土地の者から、かつてこの地をさわがせた大盗賊、熊坂長範のことを教えられます。旅僧は、先ほどの僧が熊坂の霊と気づき、申います。僧の前に、長刀を携えた熊坂長範の霊が現れます。彼は、今なお略奪に明け暮れた生前の妄執に囚われつづけていることを明かし、都から下る金売り吉次の一行為を襲撃した事件について語ります。盗賊たちはそこいら牛若丸によってことごとく返り討ちに遭ったのです。熊坂の霊は、自身の奮戦ぶりと最期の様子を伝え終え、申いを願い、消え失せるのでした。

主な演目のあらすじ

能 杜若 かきつばた
三河国(愛知県)に、諸国を巡る僧が着きます。沢辺に咲く杜若を眺めていると、ひとりの女が現れます。女はこは杜若の名所、八橋であると教えます。僧が八橋が古歌に詠まれた地であることを言うと、女は在原業平が「かきつばた」の五文字を句のはじめに置き、「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるにきぬる たびをしぞおもふ」と詠んだことを語ります。やがて日が暮れると、女は一夜の宿を貸しましょうと僧を自分の庵に招きます。女はそこで装いを替えて現れます。美しく唐衣、に冠を戴いた雅びな姿です。唐衣は業平の恋人高子の后のもの、冠は業平のもの、と教え、自らは杜若の精であることを告げます。杜若の精は、業平は歌舞の菩薩の化身、その和歌の言葉は非情の草木をも救いに導くと語ります。そして、伊勢物語に描かれた恋や歌の言葉をちりばめながら美しい舞を見せ、すべてを仏に導く法を授かり、悟りを得たとして、夜明けの光の中に姿を消します。

能 熊坂 くまさか
東国を目指す都の僧が、美濃国(岐阜県)赤坂にさしかかります。そこに、一人の僧が現れ彼を呼び止めます。今日はさる者の命日なので、弔って欲しいと頼みます。旅僧は、誰を回向するかと問いますが、その名は明かまず、庵に案内します。庵の中には仏像は無く、長刀などの武具があるばかりです。旅僧は怪しんで尋ねます。すると、「この辺りは物騒なので、助けを求め人々のためのものであり、また、仏の教えにもかなうことです」と言って寢室へ姿を消します。するとたちまち、辺りは一面の草むらとなつてしまします。

旅僧は土地の者から、かつてこの地をさわがせた大盗賊、熊坂長範のことを教えられます。旅僧は、先ほどの僧が熊坂の霊と気づき、申います。僧の前に、長刀を携えた熊坂長範の霊が現れます。彼は、今なお略奪に明け暮れた生前の妄執に囚われつづけていることを明かし、都から下る金売り吉次の一行為を襲撃した事件について語ります。盗賊たちはそこいら牛若丸によってことごとく返り討ちに遭ったのです。熊坂の霊は、自身の奮戦ぶりと最期の様子を伝え終え、申いを願い、消え失せるのでした。



2019年 6月16日(日) 午前9時30分より
於 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (地下鉄東西線・東山駅徒歩5分ほど)
会館に駐車場はありません。近隣の駐車場をご利用ください。
能「杜若」「熊坂」ほか 舞囃子・仕舞など多数
ご入場無料・全館自由席・ご入退場自由 9時開場・終演午後5時30分ごろ
主催：立命館大学能楽部OB会・立命館大学能楽部 後援：立命館大学校友会 補佐：青木道喜(講師・シテ方観世流)
お問い合わせ先：立命館大学能楽部OB会事務局 e-mail ritsnohob@gmail.com
お気軽にお問い合わせください。



*やむを得ない事情で、演目ならびに出演者等に変更がある場合がございます。また、上記の時刻はあくまでも目安です。上演中の撮影・録音などは固くお断りいたします。携帯電話・スマートフォンなどの電源はお切りください。